

# 女性の視点で防災・災害復興に取り組む

## 「災害時における女性のニーズ調査」実施(2008年)

宮城県沖地震が高い確率で発生すると言われていました。95年に発生した阪神淡路大震災において女性たちが数々の困難を抱えたことも明らかになっていました。

そこで、様々なライフスタイルで暮らす女性たちが、災害を想定した時に抱える不安や心配を調査し、きめ細かな防災対策につなぎたいと仙台市内の女性たちを対象に「災害時における女性のニーズ調査」を実施しました。

### 【アンケート調査】

\*実施日：2008年5月・6月

\*実施対象：仙台市内1,100人の女性

\*回収率：69.6%

### 【インタビュー調査】

\*実施日：2008年8月・9月

\*実施対象者：宮城県北部連続地震体験女性5名  
岩手・宮城内陸地震体験女性3名

## 女性の視点からみる防災・災害復興対策に関する提言

1. 意思決定の場における女性の参画の推進
2. 女性の視点を反映させた避難所運営
3. 多様な女性のニーズに応じた支援
4. 労働分野における防災・災害復興対策
5. 災害時におけるDV防止のための取組の推進
6. 防災・災害復興に関する教育の推進

# 東日本大震災発生 被災女性を対象に支援活動をスタート

避難所・・・洗濯代行ボランティア・お見舞い訪問・ニーズを掘り起し支援  
につなぐ <仙台市内、登米市、栗原市、気仙沼市、東松島市>

仮設住宅・・・気持ちの回復に向けたサロン活動  
仮設住宅 児童館 市民センター等

## サロン活動 <仮設住宅にて>



## <児童館・市民センターにて>



## 「東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査」実施

- 被災地で女性たちが何を体験し、何を考え、どう行動したのか、記録として残す
- 被災時、復興時の女性たちをめぐる課題解決に向けて

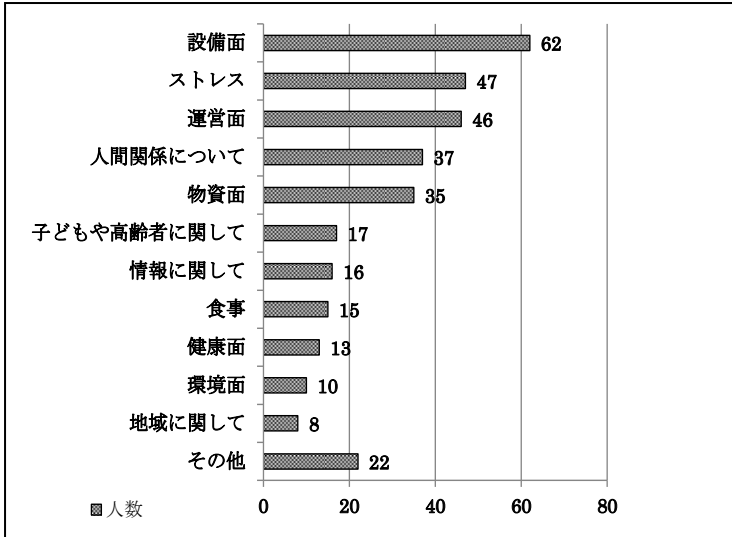
1.実施日時	2011年9月・10月
2.実施対象	宮城県内女性 3000人
3.回収数	1500人
4.回収率	50.4%

### <調査項目>

- (1)震災に伴う家族構成の変化
- (2)震災に伴う居住地の変化
- (3)自宅の被災状況及び生活の場の変化
- (4)避難所における生活状況
- (5)震災直後・震災後・現在の困難
- (6)被災者支援活動の有無及び内容
- (7)復興計画策定への女性の参画の必要性
- (8)復興計画に盛り込むべき内容
- (9)復興に向けての希望・意見
- (10)震災を体験しての考え

## ※家族構成の変化によって抱えた困難

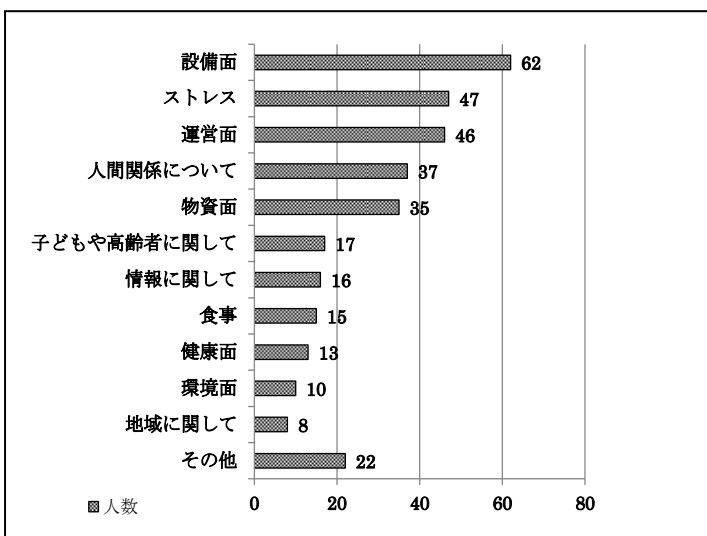
### 「震災同居」「家族離散」「家族介護」が 女性たちのストレス・体調不良を引き起こす



- \*震災後一人暮らしとなり、ストレスで辛い
- \*自宅が被災し、夫の実家で同居。気づきが多い。
- \*姑が亡くなり、しゅうとは認知症がすすんで乱暴になった。
- \*親類二家族が被災し、同居。食事等の世話で体調を崩した。
- \*要介護の親ときょうだいを抱えた。
- \*夫を亡くし、収入が無くなった。
- \*要介護の母と同居したため、仕事に行けなかった。
- \*仮設住宅が狭いため、大人5人バラバラに暮らしている。
- \*震災前から夫と別居していたが、夫の実家が被災し、同居することになった。衝突も多い。

## ※避難所で生活で感じたこと

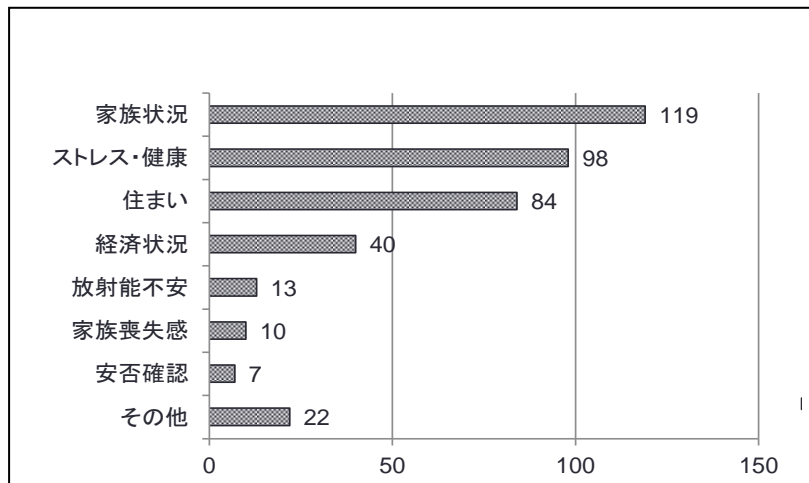
### 「介護を必要とする配偶者を連れて避難。気を遣った」 「女性リーダーがいてほしかった」・・・



- \*寝るスペースもない。
- \*洗濯機もなく、着替えもないため同じ服で過ごした。
- \*いびきや寝言がうるさく眠れなかった。
- \*狭い場所で、男女、子どもが一緒は辛い。
- \*リーダーはいなかったが、中学生が活躍してくれた。
- \*プライバシーがないため、家族で大事な話ができない。
- \*物資の配分方法でいつももめていた。
- \*ペットの毛やほこりで、アレルギーを起こしかゆみやせきがひどかった。
- \*車中避難のため、食料がもらえなかった。
- \*寝るのも食事も同じ空間なので、衛生上心配だった。
- \*歩行困難の祖母を連れていたので、トイレが困った。
- \*乳児を連れて避難。母乳が止まり、ミルクをあげようにも、ほ乳びんもミルクを溶かすお湯もなく、困った。

## ※震災で女性たちが抱えた困難

### <家 族>



\* 親戚宅に避難し、気をつかった。

\* 被災した親や親戚との同居で負担が大きかった。

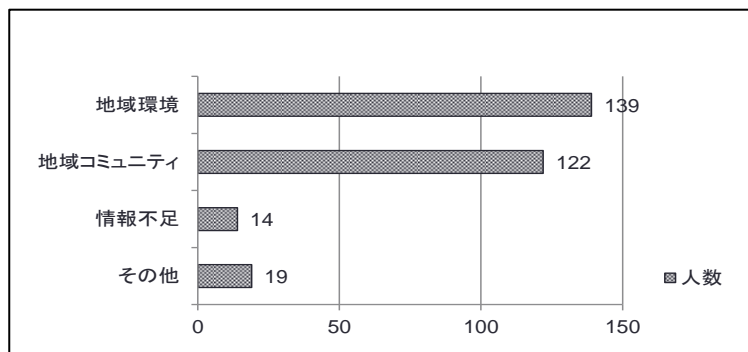
\* 働き手が仕事を失い、生活が苦しい。

\* 仮設住宅が狭いために、家族が分散して暮らしている。

\* 家族で一緒に暮らしたいのに、放射能線量が高く、子どもの健康に不安。

\* 子どもが震災の恐怖で離れたがらなくなった。

### <地 域>

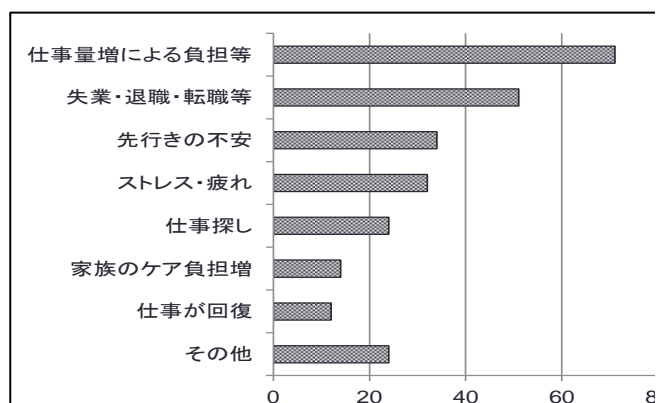


\* 空き地や空き家が増え、子ども会の行事の減り、公園も被災し、道路は段差だらけで遊ばせられない。

\* 隣人と生活リズムが合わないことが多く、面識もあまりないので、助け合いは難しかった。

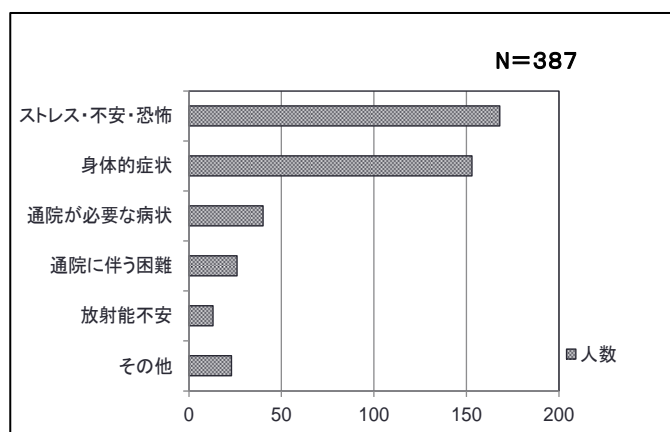
\* 今回、初めて地域の人を把握できた。

## <仕事>



- \* 職場が被災し、解雇となった。仕事が見つからない。
- \* 仕事が激減し、収入が減った。退職するスタッフが増え、負担が大きくなった。
- \* 震災を体験し、家族を守れるのは自分しかいないと思い、退職することにした。
- \* 夫の船が流失し、失業中。今後が不安。
- \* 家事や買物ができない高齢者がいたので大変だった。災害時の特別休暇があればいいと思う。

## <健康>



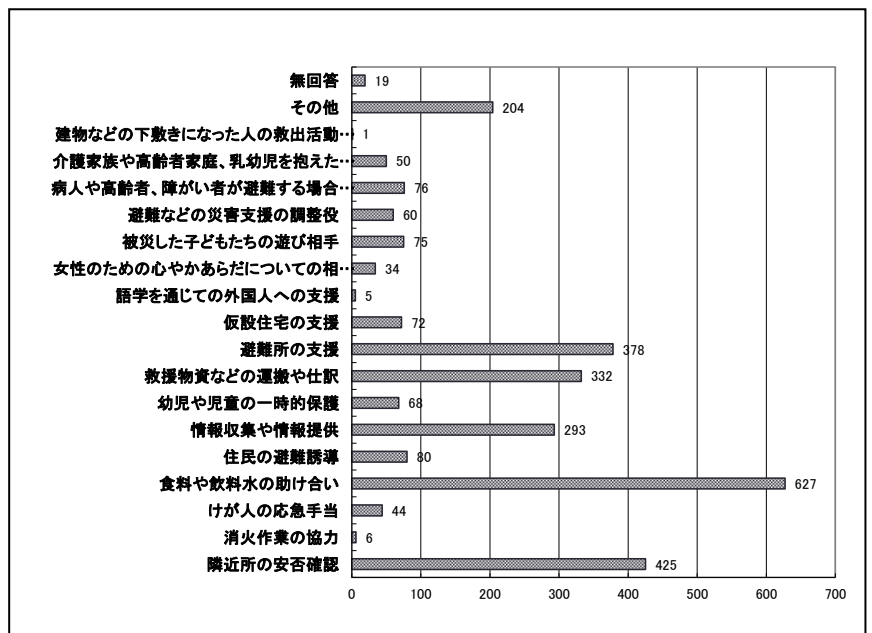
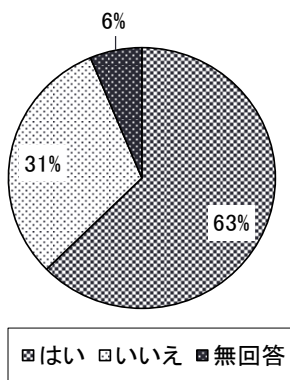
- \* 少しの揺れでも被災したことを思い出し、恐怖で涙が出てくる。
- \* 病院も被災し、通院できなくなったので困っている。
- \* 不眠が続いている。睡眠薬がなければ眠れない。
- \* ストレスからめまいや耳鳴りが止まらない。
- \* 精神的に落ち込みや喪失感が襲ってくる。
- \* 妊娠中だったが、健診のために病院に行くガソリンがなく、困った。

# 女性たちは弱者ではない

## 女性たちは困難の中に 止まっていたわけではなかった

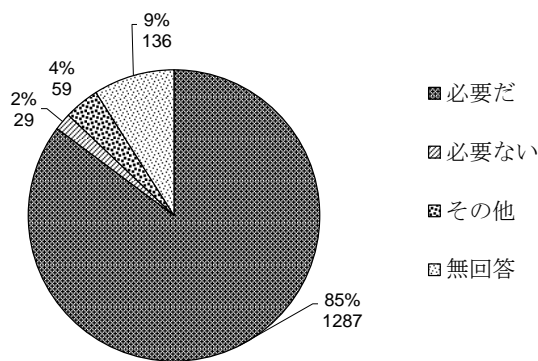
※被災者は支援者 ～6割以上が支援にあたる～

「食料や飲料水の助け合い」「避難所の支援」・・・



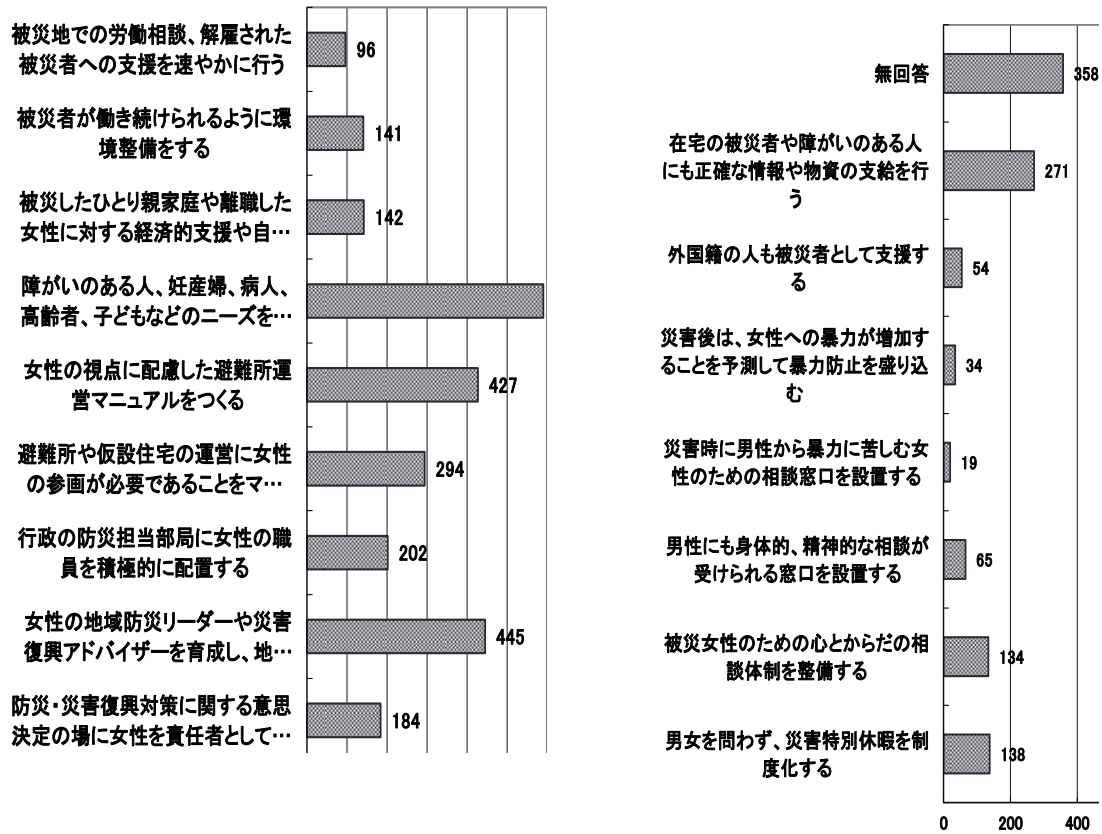
※復興計画策定の議論の場に女性の参画が必要

85%



N=1511

## ※復興計画に女性の視点を反映をさせるために盛り込むべき内容は？



- ① 「障がいのある人、妊産婦、病人、高齢者、子どもなどのニーズをまえたきめ細かなサポート体制を整備する。
- ② 女性の地域防災リーダーや災害復興アドバイザーを育成し地域に住む人々の支援体制を実効性のあるものにする。
- ③ 女性の視点に配慮した避難所運営マニュアルをつくる。
- ④ 避難所や仮設住宅の運営に女性の参画が必要であることをマニュアル化する。

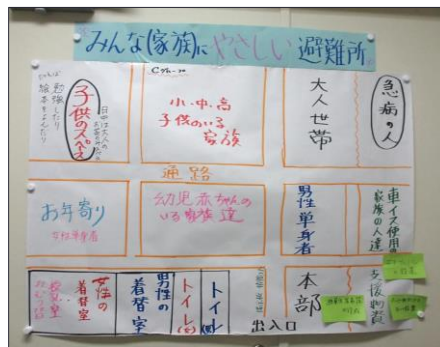


男女共同参画の視点からみる防災・災害復興に関する提言



## 地域を守るために 大切な人を守るために

1. わたしたちのまちの防災計画づくり
2. 防災計画の見直し
3. 地域の防災にかかる資源を確認
4. 避難所ワークショップのすすめ
5. 女性が防災の主体になれる仕組みづくり



# 女性のための防災リーダー養成講座

## 2013年5月スタート

東日本大震災が発生して3年目に入りました。住民主体の地域防災が言われる中、各地域では、防災の取り組みが盛んに行われています。

特に、今回の震災では、防災に女性の視点が必要であることがいわれており、困難を抱える様々な人々の立場に立った支援のあり方を考える上で、地域防災に取り組む女性リーダーの存在は不可欠です。そこで、地域で防災活動に取り組む女性リーダーを養成する講座をスタート。

### 【振り返り編】

開催日時	内容 / 講師	会場
5月22日(水) 13:30~15:30	①仙台市地域防災計画を知ろう！ 講師：仙台市消防局 等	エル・パーク仙台 創作アトリエ
6月4日(火) 13:30~15:30	②地震・津波のメカニズムを知ろう！ 講師：保田 真理さん(東北大学災害科学国際研究所助手・ 防災士)	エル・パーク仙台 創作アトリエ
6月11日(火) 13:30~15:30	③震災で何が起きているか DVと児童虐待 講師：八幡 悦子さん(特定非営利活動法人ハーティ仙台 代表理事)	エル・パーク仙台 セミナー室
6月26日(水) 13:30~15:30	④障害の特性と対応を知ろう！ 講師：作山 美智子さん(東北文化学園大学医療福祉学部 看護学科 教授)	エル・パーク仙台 創作アトリエ
7月19日(金) 13:30~16:00	⑤「災害時、こんな時の対応は？」ワークショップ 講師：浅野 幸子さん(東京女学館大学非常勤講師・ 早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」客員研究員・ 東日本大震災女性支援ネットワーク 運営委員)	エル・ソーラ仙台 大研修室



【実践編】 ～宮城野区岩切地区の受講生が企画実施～

## いわきり・わたしたちの防災講座

8/6（火） 防災に役立つコミュニケーションスキルをみがこう！

8/8（木） みんなの避難所をつくろう！

会 場：岩切市民センター 対象：岩切地区住民

共 催：＊いわきり子育てネットワーク

＊女性防災リーダー養成プロジェクトチーム

＊特定非営利活動法人イコールネット仙台

## 防災に役立つコミュニケーションスキルをみがこう



## みんなの避難所をつくろう！



# せんだい女性防災リーダー ネットワーク

リーダー養成講座の受講生が  
仙台市内の各地域で  
防災に取り組む女性たちの  
ネットワークを立ち上げました。

- ◆研修会や情報交換会を通して  
防災のスキルアップをめざします
- ◆地域での防災の取り組みを企画運営します
- ◆地域を超えて、メンバー同士が支え合うネット  
ワークです

## 募集開始 3月1日

震災からの復興支援に取り組む活動を応援します

### 東日本大震災からの復興支援にかかる ジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金助成金

藤枝滯子基金の一環として、東日本大震災からの復興支援においてジェンダー平等、女性の権利の実現等を目的とする個人・団体・グループの活動を対象に特化した助成事業については、特定非営利活動法人イコールネット仙台が担当します。

#### (特活)グループみこしと藤枝滯子基金

(特活)グループみこしは、大阪を拠点に、男女共同参画社会の実現のために、男女共同参画政策の調査研究活動、それに基づく政策推進研究集会の開催や著書の発表などを行ってきました。また、広く市民を対象に、男女共同参画分野での調査研究・提言・コンサルティング、研修・講座・イベント企画実施、情報発信の活動を進めています。また、個人・団体・グループの支援、ネットワーク形成の活動にも取り組んでいます。

このたび、(特活)グループみこしでは、ジェンダー平等の実現の必要性を広く提起してこられた(特活)グループみこし元名誉会員の藤枝滯子さんの遺志を受けて、ジェンダー平等、女性の権利の実現の活動や調査研究を支援するため「ジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金」を設立しました。

助成事業の募集開始にあたって、シンポジウムを開催します。

日時：2月16日(日) 13:30~16:00

会場：エル・ソーラ仙台大研修室

<詳しくは、チラシをごらんください。>

募集要項 申請書類はHPからダウンロードできます

日本大震災からの復興支援にかかるジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金  
**助成金の募集を開始します**

シンポジウム

**震災からまもなく3年～被災地に残された課題は・・・**

「ジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金」の設立を受け、ジェンダー平等、女性の権利の実現等の視点から被災地3県の復興支援に取り組もうとする東北6県の方々に応援する助成事業がスタートします。

東日本大震災から3年目を迎えようとしている今、果たして真の復興は進んでいるといえるでしょうか。各被災地の男女共同参画センターの取り組み等から見えてくる課題を話し合い、解決に向けて何ができるのかみなさんと一緒に考えます。

このシンポジウムは、助成募集開始にあたって、趣旨や助成金の内容等を知っていただく機会でもあります。みなさんのご参加をお待ちしています。

**日 時 2014年2月16日(日) 13:30～16:00**

**会 場 エル・ソーラ仙台 大研修室 (アエル28階)**

「ジェンダー平等をめざす藤枝滯子基金」設立にあたって

米田 禮子 特定非営利活動法人グループみこし 理事長

**2部 シンポジウム 震災からまもなく3年～**

**被災地に残された課題は・・・**

パネリスト

浅野富美枝 宮城学院女子大学 教授

木須八重子 (公財) せんだい男女共同参画財団 理事長

千葉 悦子 福島県男女共生センター 館長

平賀 圭子 特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて 理事長

コーディネーター

佐藤 理絵 河北新報社 教育プロジェクト事務局長

**3部 助成事業の案内**

【参加費】 無料

【定 員】 70名 (先着順)

【申込み・問合せ】 特定非営利活動法人イコールネット仙台

裏面申込書またはメールで TEL・FAX 022-796-6515 e-mail [equal-net@pony.ocn.jp](mailto:equal-net@pony.ocn.jp)

電話の場合は、毎週火・木・金 10:00～16:00 にお願ひします。

**主 催 特定非営利活動法人イコールネット仙台／特定非営利活動法人グループみこし**